

0001 企業活動・業務分析 > 経営組織・経営管理 | 難易度：基礎

「経営組織・経営管理」の「4つの経営資源」を確認する。次の判断「ヒト、モノ、カネ、情報。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 経営資源として代表的にヒト、モノ、カネ、情報が挙げられる。
- イ. 財務指標や資金使途の一部であり、経営資源の代表分類ではない。
- ウ. 情報システムの構成要素である。
- エ. 企業活動の要素ではあるが代表的な四分類ではない。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「売上、利益、税金、配当だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「CPU、メモリ、OS、DBだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「広告、在庫、契約、特許だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「経営組織・経営管理」の「4つの経営資源」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。経営資源として代表的にヒト、モノ、カネ、情報が挙げられる。経営管理では限られた経営資源を目的達成へ向けて適切に配分・活用する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0002 企業活動・業務分析 > 経営組織・経営管理 | 難易度：標準

「経営組織・経営管理」の演習で「正規化。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. Plan、Do、Check、Actを繰り返して管理活動を改善する考え方である。
- イ. データベース設計手法である。
- ウ. 待ち行列などの処理順序である。
- エ. 暗号方式である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「PDCA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「FIFO。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「公開鍵暗号。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「経営組織・経営管理」の「経営管理サイクル」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。データベース設計手法である。PDCAは目標設定、実行、評価、改善を継続的に回す経営管理の基本的な考え方の一つである。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0003 企業活動・業務分析 > 経営組織・経営管理 | 難易度：基礎

「組織形態」に関する理解を確認する。「持株会社。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 特定目的の一時的組織として用いられる。
- イ. 職能別組織は専門機能ごとに部門化する。
- ウ. 企業グループの支配形態に関する概念である。
- エ. 事業や製品、市場などを単位として権限を持たせる組織である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「プロジェクト組織だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「職能別組織。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「事業部制組織。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「経営組織・経営管理」の「組織形態」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。企業グループの支配形態に関する概念である。 職能別組織は専門性を高めやすい一方、部門間調整が課題になり得る。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0004 企業活動・業務分析 > 経営組織・経営管理 | 難易度：標準

「経営組織・経営管理」を復習している。「監査法人。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 専門機能別の管理が中心で、事業単位責任を持たせる目的とは異なる。
- イ. 必要な機能分担ができない。
- ウ. 事業部制では製品・地域などの単位ごとに事業責任を持たせる。
- エ. 企業内部の組織形態ではない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「職能別組織だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「全社を一つの経理部だけで構成する組織。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「事業部制組織。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「経営組織・経営管理」の「事業単位管理」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。企業内部の組織形態ではない。 事業部制は市場への対応力を高めやすい一方、機能重複によるコスト増加に注意する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0005

企業活動・業務分析 > 経営組織・経営管理 | 難易度：応用

「マトリックス組織を理解する」ために、「マトリックス組織。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. マトリックス組織は職能軸と事業・プロジェクト軸を組み合わせる。
- イ. 指揮系統は基本的に一つである。
- ウ. 組織形態の説明ではない。
- エ. 会社形態の一種である。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「単純な職能別組織だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「完全な外部委託。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「持分会社。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「経営組織・経営管理」の「二元的指揮」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。マトリックス組織は職能軸と事業・プロジェクト軸を組み合わせる。マトリックス組織は専門性と横断的な対応を両立しやすいが、指揮命令の調整が課題になり得る。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0006

企業活動・業務分析 > 経営組織・経営管理 | 難易度：標準

「経営組織・経営管理」の「人材育成」を確認する。次の選択「Off-JTだけ。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 他社等の優れた方法と比較する手法である。
- イ. 職場を離れた研修などを指す。
- ウ. OJTはOn-the-Job Trainingで、実際の職務を通じて育成する。
- エ. 業務を外部へ委託することを指す。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は元の論点では「ベンチマーキング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「OJT。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「アウトソーシング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「経営組織・経営管理」の「人材育成」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。職場を離れた研修などを指す。OJTと集合研修、eラーニングなどを目的に応じて組み合わせることで人材育成を行う。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0007

企業活動・業務分析 > 経営組織・経営管理 | 難易度：基礎

「経営組織・経営管理」の演習で「キャッシュフロー。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 資源待ちによる停止状態である。
- イ. 単位時間当たりの処理量である。
- ウ. 現金の流れを表す。
- エ. コンピテンシーは高業績者に見られる行動・能力特性を人材管理へ活用する考え方である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この説明は元の論点では「デッドロック。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「スループット。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- エ：この説明は元の論点では「コンピテンシー。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「経営組織・経営管理」の「行動特性」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。現金の流れを表す。 採用、育成、評価などで求める人材像を具体化する際に活用される。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0008

企業活動・業務分析 > 経営組織・経営管理 | 難易度：標準

「企業の社会的責任」に関する理解を確認する。「SQL。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 分散システムの性質に関する考え方である。
- イ. ストレージ冗長化方式である。
- ウ. CSRはCorporate Social Responsibilityで、企業の社会的責任を表す。
- エ. データベース言語である。

答え・解説

正答：エ

- ア：この説明は元の論点では「CAP定理。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「RAID。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「CSR。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「経営組織・経営管理」の「企業の社会的責任」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。データベース言語である。 企業は利益だけでなく多様なステークホルダや社会への影響も考慮して活動する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0009 企業活動・業務分析 > 経営組織・経営管理 | 難易度：応用

「経営組織・経営管理」の演習で「Y理論。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. Y理論は人が自主性や責任感を発揮し得るという人間観に立つ。
- イ. 人は仕事を嫌い、強制や統制が必要という考え方に近い。
- ウ. ゲーム理論の概念である。
- エ. 生産規模拡大による単位コスト低下の考え方である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「X理論。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「ゼロ和ゲーム。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「規模の経済。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「経営組織・経営管理」の「人間観」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。Y理論は人が自主性や責任感を発揮し得るという人間観に立つ。XY理論は管理者の人間観とマネジメントスタイルの関係を考える際に用いられる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0010 企業活動・業務分析 > 経営組織・経営管理 | 難易度：標準

「コーポレートガバナンスを理解する」ために、「ページング。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. データベース構造の設計である。
- イ. 仮想記憶管理方式である。
- ウ. コーポレートガバナンスは企業経営を規律・監督する企業統治の仕組みである。
- エ. システム性能容量の計画である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「スキーマ設計。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「コーポレートガバナンス。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「キャパシティプランニング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「経営組織・経営管理」の「企業統治」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。仮想記憶管理方式である。所有と経営が分離した企業では、適切な監督と説明責任が重要となる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0011 企業活動・業務分析 > OR・IE・業務分析・データ利活用 | 難易度：基礎

「OR・IE・業務分析・データ利活用」の「最適化」を確認する。次の選択「ERモデル。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 順番に資源を割り当てる方式である。
- イ. 線形な目的関数と制約条件の下で最適解を求める手法が線形計画法である。
- ウ. データモデルである。
- エ. 暗号方式である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「ラウンドロビン。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「線形計画法。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「公開鍵暗号。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「OR・IE・業務分析・データ利活用」の「最適化」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。データモデルである。線形計画法は配分問題や輸送問題など限られた資源の最適配分に用いられる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0012 企業活動・業務分析 > OR・IE・業務分析・データ利活用 | 難易度：標準

「OR・IE・業務分析・データ利活用」の演習で「50個。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 安全在庫を加えていない。
- イ. 需要と安全在庫を誤って計算している。
- ウ. 発注点はリードタイム中の需要80個に安全在庫30個を加えて110個となる。
- エ. リードタイム需要の計算が不足している。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「80個。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「140個。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「110個。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「OR・IE・業務分析・データ利活用」の「在庫管理」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。リードタイム需要の計算が不足している。発注点は一般に、調達期間中に必要となる在庫量へ安全在庫を加えて設定する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0013 企業活動・業務分析 > OR・IE・業務分析・データ活用 | 難易度：基礎

「在庫補充方式」に関する理解を確認する。「定量発注方式。」という結論を支持する説明として最も適切なものはどれか。

- ア. 定量発注方式は在庫が発注点へ達した時に一定量を発注する。
- イ. 一定の周期ごとに必要量を計算して発注する。
- ウ. 生産方式であり在庫発注方式とは異なる。
- エ. 作業測定手法である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「定期発注方式。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「受注生産だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「ワークサンプリング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「OR・IE・業務分析・データ活用」の「在庫補充方式」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。定量発注方式は在庫が発注点へ達した時に一定量を発注する。 需要が比較的安定した品目では定量発注方式を用いやすい。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0014 企業活動・業務分析 > OR・IE・業務分析・データ活用 | 難易度：標準

「OR・IE・業務分析・データ活用」を復習している。「160%。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. $160 \div 200 = 0.8$ なので80%である。
- イ. 観測回数そのものを百分率としている。
- ウ. 非稼働の割合である。
- エ. 比率の計算が逆である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「80%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「20%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「125%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「OR・IE・業務分析・データ活用」の「稼働率推定」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。観測回数そのものを百分率としている。ワークサンプリングは多数回の瞬間観測から作業状態の割合を推定するIE手法である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0015 企業活動・業務分析 > OR・IE・業務分析・データ利活用 | 難易度：応用

「デシジョンツリーを理解する」ために、「DNSツリー。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. オブジェクト構造を表す。
- イ. デシジョンツリーは意思決定と不確実な事象、結果を枝分かれて整理できる。
- ウ. 名前空間の階層である。
- エ. システム状態の遷移を表す。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「クラス図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「デシジョンツリー。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「状態遷移図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「OR・IE・業務分析・データ利活用」の「意思決定」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを
確認する。名前空間の階層である。不確実性のある経営判断では、選択肢と確率、結果を構造化して比較できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0016 企業活動・業務分析 > OR・IE・業務分析・データ利活用 | 難易度：標準

「OR・IE・業務分析・データ利活用」の「データ前処理」を確認する。次の選択「全データを削除する。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 0が意味のある値なら偏りを生む可能性がある。
- イ. 結果の信頼性が低下する。
- ウ. 欠損値は分析結果へ影響するため、原因や分布を確認して適切に処理する。
- エ. 必要な情報まで失う。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「欠損値を全て0歳として機械的に置換する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「欠損の存在を確認せず分析する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「欠損の原因と割合を確認し、削除・補完など分析目的に適した処理を選ぶ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「OR・IE・業務分析・データ利活用」の「データ前処理」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを
確認する。必要な情報まで失う。データ分析では名寄せ、外れ値・欠損値処理、標準化などの前処理が重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0017 企業活動・業務分析 > OR・IE・業務分析・データ活用 | 難易度：基礎

「OR・IE・業務分析・データ利活用」を復習している。「標本が利用者全体を代表せず、選択バイアスが生じている可能性がある。」と判断できる理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 調査対象の選び方が偏ると推定結果にも偏りが生じる。
- イ. 標本の代表性が重要である。
- ウ. 肯定的な回答へ偏る可能性がある。
- エ. 標本抽出方法は結論の妥当性へ影響する。

答え・解説 正答：ア

- ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- イ：この説明は元の論点では「回答数が1件でもあれば必ず母集団を正確に推定できる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「ファンだけの調査ほど必ず中立になる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「標本抽出方法は分析結果に影響しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「OR・IE・業務分析・データ利活用」の「標本偏り」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。調査対象の選び方が偏ると推定結果にも偏りが生じる。データの量だけでなく取得方法やバイアスも評価する必要がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0018 企業活動・業務分析 > OR・IE・業務分析・データ活用 | 難易度：標準

「相関可視化」に関する理解を確認する。「円グラフだけ。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 状態変化の表現用である。
- イ. 構成比の表示に向く。
- ウ. 散布図は二つの量的変数の組を点として表し、関係や相関を確認するのに適する。
- エ. 日程管理用である。

答え・解説 正答：イ

- ア：この説明は元の論点では「状態遷移図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- ウ：この説明は元の論点では「散布図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「ガントチャート。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「OR・IE・業務分析・データ利活用」の「相関可視化」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。構成比の表示に向く。相関が見えても因果関係が証明されたとは限らない点にも注意する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0019 企業活動・業務分析 > OR・IE・業務分析・データ活用 | 難易度：応用

「OR・IE・業務分析・データ利活用」を復習している。「棒が大きく見えるので売上は数倍になったと判断する。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 視覚表現は印象へ影響する。
- イ. 元データや尺度の確認が必要である。
- ウ. 実際には5%の増加である。
- エ. 切断された軸は視覚的な差を誇張する場合がある。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「縦軸の開始値は解釈に影響しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「グラフを見れば元データの確認は不要である。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

エ：この説明は元の論点では「軸の範囲によって変化が誇張されて見えるため、実際の増加率も確認する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「OR・IE・業務分析・データ利活用」の「切断軸」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。実際には5%の増加である。データ可視化では不適切な表現に惑わされず、尺度や基準を確認して判断する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0020 企業活動・業務分析 > OR・IE・業務分析・データ活用 | 難易度：標準

「BIを理解する」ために、「DHCP。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 安全な遠隔接続プロトコルである。
- イ. ストレージ冗長化方式である。
- ウ. BIはBusiness Intelligenceで、組織内データを分析し意思決定へ活用する。
- エ. IP設定配布プロトコルである。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「SSH。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「RAID。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は元の論点では「BI。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「OR・IE・業務分析・データ利活用」の「意思決定支援」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。IP設定配布プロトコルである。データ利活用では収集・加工・分析・可視化を経営課題の解決へ結び付けることが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0021 企業活動・業務分析 > 会計・財務 | 難易度：基礎

「会計・財務」の「費用分類」を確認する。次の判断「固定費。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 固定費は操業度にかかわらず一定範囲で発生額が大きく変わらない費用である。
- イ. 生産量などに応じて変動する費用である。
- ウ. 収益項目である。
- エ. 本業外の収益である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「変動費。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「売上高。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「営業外収益。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「会計・財務」の「費用分類」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。固定費は操業度にかかわらず一定範囲で発生額が大きく変わらない費用である。 損益分岐点分析では固定費と変動費を区別する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0022 企業活動・業務分析 > 会計・財務 | 難易度：標準

「会計・財務」の演習で「180万円。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 計算が過大である。
- イ. 固定費に変動費率を掛けている。
- ウ. 限界利益率は40%なので、 $300 \div 0.4 = 750$ 万円である。
- エ. 固定費を変動費率で割っている。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「1,200万円。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「750万円。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「500万円。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「会計・財務」の「損益分岐点」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。固定費に変動費率を掛けている。 損益分岐点売上高は固定費÷限界利益率で求められる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0023 企業活動・業務分析 > 会計・財務 | 難易度：基礎

「財政状態」に関する理解を確認する。「キャッシュフロー計算書。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 財務諸表ではない。
- イ. 貸借対照表は決算日時点の財政状態を表す。
- ウ. 一定期間の現金等の流れを表す。
- エ. 一定期間の収益と費用、利益を表す。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「作業日報。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「貸借対照表。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「損益計算書。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「会計・財務」の「財政状態」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。一定期間の現金等の流れを表す。 貸借対照表では資産=負債+純資産という関係で財政状態を捉える。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0024 企業活動・業務分析 > 会計・財務 | 難易度：標準

「会計・財務」を復習している。「株主名簿。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 期末時点の財政状態を示す。
- イ. IT資産構成管理用である。
- ウ. 損益計算書は一定期間の収益・費用と利益を表す。
- エ. 株主情報の管理資料である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「貸借対照表だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「構成管理台帳。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「損益計算書。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「会計・財務」の「期間損益」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。株主情報の管理資料である。 売上総利益、営業利益、経常利益などを段階的に確認できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0025 企業活動・業務分析 > 会計・財務 | 難易度：応用

「売上総利益を計算できる」ために、「350万円。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. 売上総利益=売上高-売上原価=1,000-650=350万円である。
- イ. 売上原価そのものである。
- ウ. 加算している。
- エ. 計算根拠が異なる。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「650万円。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「1,650万円。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「100万円。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「会計・財務」の「粗利益」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。売上総利益=売上高-売上原価=1,000-650=350万円である。売上総利益は商品・サービスの売上から直接対応する売上原価を差し引いた利益である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0026 企業活動・業務分析 > 会計・財務 | 難易度：標準

「会計・財務」の「本業利益」を確認する。次の選択「350万円。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 営業利益=売上総利益-販売費及び一般管理費=150万円である。
- イ. 売上総利益と混同している。
- ウ. 加算している。
- エ. 費用額そのものである。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「150万円。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「550万円。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「200万円。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「会計・財務」の「本業利益」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。売上総利益と混同している。営業利益は企業の本業による利益を示す代表的な指標である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0027 企業活動・業務分析 > 会計・財務 | 難易度：基礎

「会計・財務」の演習で「WBS。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 収益・費用を示す。
- イ. キャッシュフロー計算書は一定期間の現金等の流入・流出を活動別に示す。
- ウ. 作業分解構造である。
- エ. 一定時点の資産・負債等を示す。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「損益計算書。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「キャッシュフロー計算書。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「貸借対照表。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「会計・財務」の「資金の流れ」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。作業分解構造である。利益が出ていても現金不足となる場合があるため、キャッシュフローも重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0028 企業活動・業務分析 > 会計・財務 | 難易度：標準

「安全性指標」に関する理解を確認する。「100%。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 分子と分母が逆である。
- イ. 計算が異なる。
- ウ. 流動比率=流動資産÷流動負債×100=600÷400×100=150%である。
- エ. 資産と負債が同額の場合の値である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「66.7%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「200%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「150%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「会計・財務」の「安全性指標」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。資産と負債が同額の場合の値である。流動比率は短期的な支払能力を見る安全性指標の一つである。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0029 企業活動・業務分析 > 会計・財務 | 難易度：応用

「会計・財務」の演習で「5%。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. $40 \div 800 \times 100 = 5\%$ である。
- イ. 分母・分子の関係が異なる。
- ウ. 計算が10倍大きい。
- エ. 計算が10分の1である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「20%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「50%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「0.5%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「会計・財務」の「収益性指標」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。 $40 \div 800 \times 100 = 5\%$ である。ROAは総資産を使ってどれだけ利益を生み出したかを見る収益性指標である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0030 企業活動・業務分析 > 会計・財務 | 難易度：標準

「財務会計と管理会計を区別できる」ために、「財務会計だけ。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 一般的な会計分類ではない。
- イ. 主に外部利害関係者への報告を目的とする。
- ウ. 管理会計は経営意思決定や計画、管理のための内部情報を扱う。
- エ. 税務計算に限定される。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「ネットワーク会計。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「管理会計。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「税務申告書だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「会計・財務」の「会計目的」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。主に外部利害関係者への報告を目的とする。財務会計と管理会計では主な利用者と目的が異なる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0031 経営戦略・マーケティング > SWOT・競争戦略・経営戦略手法 | 難易度：基礎

「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「内部・外部環境」を確認する。次の選択「Weakness（弱み）。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 外部環境の好機を指す。
- イ. 外部環境の脅威を指す。
- ウ. 内部の不利な要因を指す。
- エ. 自社内部の有利な経営資源や能力はStrengthに分類する。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「Opportunity（機会）。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「Threat（脅威）。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「Strength（強み）。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「内部・外部環境」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。内部の不利な要因を指す。SWOTでは内部環境を強み・弱み、外部環境を機会・脅威として整理する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0032 経営戦略・マーケティング > SWOT・競争戦略・経営戦略手法 | 難易度：標準

「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の演習で「自社内部の強みを表すStrength（強み）。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. Weaknessは自社内部の不利な要因を示すため、この事例には該当しない。
- イ. Threatは外部環境の不利な変化を示すため、この事例とは逆である。
- ウ. 補助制度は自社外部の有利な環境変化なのでOpportunityに該当する。
- エ. Strengthは自社内部の有利な能力・資源を示すため、この事例には該当しない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「自社内部の弱点を表すWeakness（弱み）。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「外部環境の不利な変化を表すThreat（脅威）。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「外部環境の好機を表すOpportunity（機会）。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「外部環境」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。Strengthは自社内部の有利な能力・資源を示すため、この事例には該当しない。外部環境の変化を自社の強みと組み合わせる戦略へつなげるのがSWOT活用の基本である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0033 経営戦略・マーケティング > SWOT・競争戦略・経営戦略手法 | 難易度：基礎

「競争戦略」に関する理解を確認する。「コストリーダーシップ戦略。」という結論を支持する説明として最も適切なものはどれか。

- ア. 低コスト構造を競争優位の源泉とする戦略である。
- イ. 独自価値で競争する戦略である。
- ウ. 特定市場へ資源を集中する戦略である。
- エ. 事業領域拡大の考え方である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「差別化戦略。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「集中戦略。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「多角化だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「競争戦略」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。低コスト構造を競争優位の源泉とする戦略である。コスト低減そのものではなく、低コストを競争優位として活用する点が重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0034 経営戦略・マーケティング > SWOT・競争戦略・経営戦略手法 | 難易度：標準

「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」を復習している。「集中戦略だけ。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 事業から退出する戦略である。
- イ. 対象市場を限定することが中心である。
- ウ. 顧客が価値を認める独自性を競争優位とするのが差別化戦略である。
- エ. 主に低コストを競争優位とする。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「撤退戦略。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「差別化戦略。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「コストリーダーシップ戦略。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「独自価値」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。対象市場を限定することが中心である。差別化には製品機能だけでなくブランド、サービス、顧客体験なども利用できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0035 経営戦略・マーケティング > SWOT・競争戦略・経営戦略手法 | 難易度：応用

「集中戦略を理解する」ために、「垂直統合だけ。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 共通業務を集約する仕組みである。
- イ. 特定の顧客層や市場セグメントへ資源を集中するのが集中戦略である。
- ウ. 供給網上の統合を指す。
- エ. 市場全体で低コスト優位を狙う戦略とは異なる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は元の論点では「シェアードサービス。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「集中戦略。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- エ：この説明は元の論点では「コストリーダーシップ戦略だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「ニッチ市場」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。供給網上の統合を指す。 限定市場でのニーズ理解や専門性を競争優位へ結び付ける。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0036 経営戦略・マーケティング > SWOT・競争戦略・経営戦略手法 | 難易度：標準

「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「花形」を確認する。次の選択「問題児。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 低成長・高シェアである。
- イ. 低成長・低シェアである。
- ウ. 高成長・高シェアの事業は花形に分類される。
- エ. 高成長・低シェアである。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は元の論点では「金のなる木。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「負け犬。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「花形（Star）。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「花形」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。高成長・低シェアである。 PPMでは成長率と相対シェアを用いて事業ポートフォリオを考える。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0037 経営戦略・マーケティング > SWOT・競争戦略・経営戦略手法 | 難易度：基礎

「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」を復習している。「コアコンピタンス。」と判断できる理由として最も適切なものはどれか。

- ア. コアコンピタンスは企業の競争優位を支える独自の中核能力を指す。
- イ. 業務を外部委託することを指す。
- ウ. 現金の流れである。
- エ. 資源待ちの停止状態である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「アウトソーシング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「キャッシュフロー。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「デッドロック。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「中核能力」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。コアコンピタンスは企業の競争優位を支える独自の中核能力を指す。 自社の強みの中でも持続的な競争優位へつなげる能力を見極めることが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0038 経営戦略・マーケティング > SWOT・競争戦略・経営戦略手法 | 難易度：標準

「価値活動」に関する理解を確認する。「PERT。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 企業活動を価値創造の連鎖として分解し、競争優位の源泉を分析する。
- イ. 日程計画手法である。
- ウ. 内外環境の整理が中心である。
- エ. 二変数の関係を可視化する。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「バリューチェーン分析。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「SWOT分析だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「散布図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「価値活動」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。日程計画手法である。 活動ごとの強み、コスト、連携を分析することで改善や差別化の機会を探せる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0039 経営戦略・マーケティング > SWOT・競争戦略・経営戦略手法 | 難易度：応用

「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」を復習している。「外部環境の脅威だけを示す。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 価値があることが前提に含まれる。
- イ. VRIOの四条件を満たす資源は持続的競争優位へつながり得る。
- ウ. 内部資源の評価手法である。
- エ. 条件を満たしているため不適切である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「価値がない資源と同じ扱いになる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「持続的競争優位の源泉となり得る。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「必ず競争劣位になる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「持続的競争優位」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。内部資源の評価手法である。VRIOはValue、Rarity、Imitability、Organizationの観点で資源を評価する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0040 経営戦略・マーケティング > SWOT・競争戦略・経営戦略手法 | 難易度：標準

「成長マトリクスを理解する」ために、「多角化戦略。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 既存製品を新市場へ展開する。
- イ. 新製品を既存市場へ投入する。
- ウ. 既存製品を既存市場でさらに伸ばす戦略が市場浸透である。
- エ. 新製品を新市場へ投入する。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「市場開拓戦略。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「製品開発戦略。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「市場浸透戦略。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「市場浸透」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。新製品を新市場へ投入する。製品と市場の新旧の組合せで成長方向を整理する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0041 経営戦略・マーケティング > SWOT・競争戦略・経営戦略手法 | 難易度：基礎

「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「比較改善」を確認する。次の判断「ベンチマーキング。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 優れた実践との比較から改善機会を発見するのがベンチマーキングである。
- イ. ネットワーク通信方式である。
- ウ. DB排他制御である。
- エ. テスト用代替モジュールである。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「マルチキャスト。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「ロック制御。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「スタブ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「比較改善」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。優れた実践との比較から改善機会を発見するのがベンチマーキングである。 単なる模倣ではなく、成功要因を理解して自社へ適用することが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0042 経営戦略・マーケティング > SWOT・競争戦略・経営戦略手法 | 難易度：標準

「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の演習で「固定費。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 仮想記憶の事象である。
- イ. 費用分類である。
- ウ. 環境変化に適応して資源や能力を再構成する組織能力を表す。
- エ. DB設計手法である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「ページフォールト。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「ダイナミックケイパビリティ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「正規化。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「SWOT・競争戦略・経営戦略手法」の「環境変化対応」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。費用分類である。 変化の大きい環境では既存の強みを維持するだけでなく、能力そのものを更新する力が重要になる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0043 経営戦略・マーケティング > マーケティング | 難易度：基礎

「市場分析」に関する理解を確認する。「Cost、Cash、Credit。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. コンピュータ性能要素である。
- イ. 変更管理に関する用語の組合せである。
- ウ. 財務用語の組合せである。
- エ. 3Cは顧客、市場競合、自社の三視点で事業環境を整理する。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「CPU、Cache、Clock。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「Change、Control、Configuration。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「Customer、Competitor、Company。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「マーケティング」の「市場分析」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。財務用語の組合せである。顧客ニーズ、競合状況、自社能力を合わせて分析することで戦略の前提を整理できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0044 経営戦略・マーケティング > マーケティング | 難易度：標準

「マーケティング」を復習している。「ターゲティング。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 顧客の心の中で自社製品の位置付けを明確にする活動である。
- イ. ソフトウェア内部構造の改善である。
- ウ. 市場を意味のある顧客群へ細分化するのがセグメンテーションである。
- エ. 狙う市場を選ぶ活動である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「ポジショニング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「リファクタリング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「セグメンテーション。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「マーケティング」の「市場細分化」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。狙う市場を選ぶ活動である。STPでは市場細分化、標的市場選定、位置付けを順に考える。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0045 経営戦略・マーケティング > マーケティング | 難易度：基礎

「ターゲティングを理解する」ために、「ターゲティング。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. 標的とする市場セグメントを選ぶのがターゲティングである。
- イ. 市場を分ける活動である。
- ウ. 競争上の位置付けを明確にする活動である。
- エ. システム性能拡張方式である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「セグメンテーション。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「ポジショニング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「スケールアウト。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「マーケティング」の「標的市場」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。標的とする市場セグメントを選ぶのがターゲティングである。 魅力度と自社能力を考慮してターゲットを選ぶ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0046 経営戦略・マーケティング > マーケティング | 難易度：標準

「マーケティング」の「競争上の位置付け」を確認する。次の選択「ターゲティング。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. IEの作業測定手法である。
- イ. 標的顧客選定である。
- ウ. 顧客の認識上で競合と異なる位置付けを設計するのがポジショニングである。
- エ. 市場細分化である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「ワークサンプリング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「ポジショニング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「セグメンテーション。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「マーケティング」の「競争上の位置付け」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。標的顧客選定である。 ターゲット顧客に対してどの価値で選ばれるかを明確にする。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0047 経営戦略・マーケティング > マーケティング | 難易度：応用

「マーケティング」の演習で「トランザクション管理。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. メモリ管理方式である。
- イ. Product、Price、Place、Promotionなどを組み合わせる考え方である。
- ウ. DB処理の管理である。
- エ. 組織内部の統制活動である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「ページ置換。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「マーケティングミックス。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「内部統制。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「マーケティング」の「4P」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。DB処理の管理である。 個々の施策ではなく、複数要素の整合を取って顧客価値を届ける。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0048 経営戦略・マーケティング > マーケティング | 難易度：標準

「成熟期」に関する理解を確認する。「成長期。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 市場形成初期である。
- イ. PLCの市場段階ではない。
- ウ. 成熟期は需要拡大が鈍化し、市場シェア争いが激しくなりやすい。
- エ. 需要が大きく拡大する段階である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「導入期。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「開発前段階。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「成熟期。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「マーケティング」の「成熟期」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。需要が大きく拡大する段階である。 各段階に応じて製品、価格、流通、プロモーション戦略を変える必要がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0049 経営戦略・マーケティング>マーケティング | 難易度：基礎

「マーケティング」の演習で「ペネトレーションプライシング。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. 低価格で市場浸透を促すのがペネトレーションプライシングである。
- イ. 初期に高価格を設定して高い支払意思の層から利益を得る戦略である。
- ウ. 原価へ一定利益を加える価格設定である。
- エ. 企業グループ内取引などの価格概念である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「スキミングプライシング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「コストプラス法だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「移転価格。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「マーケティング」の「ペネトレーションプライシング」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。低価格で市場浸透を促すのがペネトレーションプライシングである。価格戦略は普及速度、競争状況、顧客の価格感度などを考慮して選ぶ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0050 経営戦略・マーケティング>マーケティング | 難易度：標準

「オムニチャネルを理解する」ために、「マルチスレッド。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 複数の接点を統合して顧客体験を連続させるのがオムニチャネルである。
- イ. 並行処理の技術である。
- ウ. 一つの販売経路に限定する。
- エ. 外部委託である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「オムニチャネル。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「単一チャネル。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「アウトソーシング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「マーケティング」の「チャネル統合」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。並行処理の技術である。単に販売経路を複数持つだけでなく、在庫や顧客体験を連携させる点が重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0051

経営戦略・マーケティング > マーケティング | 難易度：応用

「マーケティング」の「Webマーケティング」を確認する。次の選択「40%。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 分母と分子の扱いが誤っている。
- イ. $80 \div 2,000 \times 100 = 4\%$ である。
- ウ. 百分率の計算が誤っている。
- エ. 計算が異なる。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この説明は元の論点では「25%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「4%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- エ：この説明は元の論点では「2.5%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「マーケティング」の「Webマーケティング」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。百分率の計算が誤っている。CVRはWeb施策が目的行動へつなげた割合を見る指標の一つである。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0052

経営戦略・マーケティング > マーケティング | 難易度：標準

「マーケティング」の演習で「静的解析。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 内外環境分析である。
- イ. 日程計画手法である。
- ウ. 二つの案を条件を揃えて比較し、成果差を検証するのがA/Bテストである。
- エ. プログラムを実行せず解析する手法である。

答え・解説

正答：エ

- ア：この説明は元の論点では「SWOT分析。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「PERT。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「A/Bテスト。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「マーケティング」の「施策比較」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。プログラムを実行せず解析する手法である。Webマーケティングでは仮説を小さく検証し、データに基づいて改善するために用いられる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0053

経営戦略・マーケティング > 事業戦略・KPI・経営管理システム | 難易度：基礎

「目標指標」に関する理解を確認する。「KGI。」という結論を支持する説明として最も適切なものはどれか。

- ア. KGIは最終的な目標達成度を測る重要目標達成指標である。
- イ. 目標達成へ向けた中間的な活動・成果の指標である。
- ウ. 重要成功要因そのものを指す。
- エ. サービスレベル合意である。

答え・解説

正答：ア

- ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- イ：この説明は元の論点では「KPI。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「CSF。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「SLA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「事業戦略・KPI・経営管理システム」の「目標指標」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。KGIは最終的な目標達成度を測る重要目標達成指標である。 KGI、CSF、KPIを因果関係が分かる形で設定すると戦略実行を管理しやすい。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0054

経営戦略・マーケティング > 事業戦略・KPI・経営管理システム | 難易度：標準

「事業戦略・KPI・経営管理システム」を復習している。「会社名。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 理念は重要だが日常の達成度を直接測るKPIとは異なる。
- イ. 成果指標ではない。
- ウ. 購入率や単価は売上形成と関係し、継続的に測定できる。
- エ. 業務成果との関係が弱い。

答え・解説

正答：イ

- ア：この説明は元の論点では「経営理念の文章だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
 - イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
 - ウ：この説明は元の論点では「購入率や平均購入単価など、売上へ影響する測定可能な指標。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
 - エ：この説明は元の論点では「サーバの製造番号だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- 総合解説：この問題は「事業戦略・KPI・経営管理システム」の「中間指標」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。成果指標ではない。 KPIはKGI達成へつながる要因を継続的に監視できるものを選ぶ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0055

経営戦略・マーケティング > 事業戦略・KPI・経営管理システム | 難易度：標準

「CSFを理解する」ために、「KGI。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 統合業務システムである。
- イ. 提案依頼書である。
- ウ. 最終目標の達成度を測る指標である。
- エ. CSFはCritical Success Factorで、戦略達成に特に重要な成功要因を指す。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「ERP。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「RFP。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「CSF。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「事業戦略・KPI・経営管理システム」の「重要成功要因」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。最終目標の達成度を測る指標である。CSFを明確にした上で、それを測るKPIを設定すると管理しやすい。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0056

経営戦略・マーケティング > 事業戦略・KPI・経営管理システム | 難易度：応用

「事業戦略・KPI・経営管理システム」の「多面的評価」を確認する。次の選択「SWOT。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 経済的発注量である。
- イ. 公開鍵暗号方式である。
- ウ. BSCはBalanced Scorecardで、複数視点から戦略目標と指標を整理する。
- エ. 内部・外部環境分析である。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は元の論点では「EOQ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「RSA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「BSC。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「事業戦略・KPI・経営管理システム」の「多面的評価」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。内部・外部環境分析である。短期財務成果だけでなく将来成果を生む非財務指標も含めて戦略実行を管理できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0057 経営戦略・マーケティング > 事業戦略・KPI・経営管理システム | 難易度：基礎

「事業戦略・KPI・経営管理システム」を復習している。「ERP。」と判断できる理由として最も適切なものはどれか。

- ア. ERPはEnterprise Resource Planningで、全社資源と基幹業務を統合管理する。
- イ. 顧客関係管理を中心とする。
- ウ. 営業活動支援を中心とする。
- エ. 名前解決システムである。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「CRM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「SFA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「DNS。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「事業戦略・KPI・経営管理システム」の「全社資源統合」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。ERPはEnterprise Resource Planningで、全社資源と基幹業務を統合管理する。部門ごとのデータ分断を減らし、全社的な情報活用を支援する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0058 経営戦略・マーケティング > 事業戦略・KPI・経営管理システム | 難易度：標準

「顧客関係管理」に関する理解を確認する。「ERPだけ。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. ストレージ冗長化方式である。
- イ. 全社基幹業務統合のより広い仕組みである。
- ウ. CRMはCustomer Relationship Managementで、顧客関係を継続的に管理する。
- エ. 供給連鎖管理を中心とする。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「RAID。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「CRM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「SCM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「事業戦略・KPI・経営管理システム」の「顧客関係管理」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。全社基幹業務統合のより広い仕組みである。顧客データを部門横断で活用し、顧客満足や収益性向上を目指す。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0059 経営戦略・マーケティング > 事業戦略・KPI・経営管理システム | 難易度：応用

「事業戦略・KPI・経営管理システム」を復習している。「CRMだけ。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 公開鍵基盤である。
- イ. SCMはSupply Chain Managementで、供給連鎖全体を統合的に最適化する。
- ウ. 顧客関係管理が中心である。
- エ. 営業活動支援システムである。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「PKI。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「SCM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「SFA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「事業戦略・KPI・経営管理システム」の「供給連鎖最適化」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。顧客関係管理が中心である。局所最適ではなく調達先から顧客までの全体を見て在庫・物流・生産を調整する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0060 経営戦略・マーケティング > 事業戦略・KPI・経営管理システム | 難易度：標準

「SFAを理解する」ために、「SCM。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 全社基幹業務統合を目的とする。
- イ. セキュリティログ分析基盤である。
- ウ. SFAはSales Force Automationで、営業活動の管理・支援に使う。
- エ. 供給連鎖管理である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「ERP。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「SIEM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「SFA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「事業戦略・KPI・経営管理システム」の「営業支援」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。供給連鎖管理である。案件状況を共有し、営業プロセスの標準化や予測精度向上に活用できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0061 システム戦略・システム企画 > DX・BPR・情報システム戦略 | 難易度：基礎

「DX・BPR・情報システム戦略」の「経営戦略との整合」を確認する。次の判断「経営戦略の実現に向けて、情報システムのあるべき姿や投資・活用方針を定める。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 情報システム戦略は経営戦略と整合させてITの方向性を定める。
- イ. 全体最適や重複投資を損ないやすい。
- ウ. 環境変化へ対応できない。
- エ. IT活用による価値創出を否定する。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「各部門が独立して好きなシステムを導入できるようにする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「既存システムを永久に変更しない方針を定める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「IT投資を全て停止する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DX・BPR・情報システム戦略」の「経営戦略との整合」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。情報システム戦略は経営戦略と整合させてITの方向性を定める。経営目標、業務課題、IT動向を踏まえて情報システムの将来像を描くことが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0062 システム戦略・システム企画 > DX・BPR・情報システム戦略 | 難易度：標準

「DX・BPR・情報システム戦略」の演習で「構成品目。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. To-Belは目指す将来像を表す。
- イ. 構成管理対象である。
- ウ. As-Isは現状を表す。
- エ. 監査作業の記録である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「To-Beモデル。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「As-Isモデル。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「監査調書。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DX・BPR・情報システム戦略」の「現状・将来像」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。構成管理対象である。現状と理想像の差分を明確にすることで改革テーマやシステム化対象を決めやすくなる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0063 システム戦略・システム企画 > DX・BPR・情報システム戦略 | 難易度：基礎

「業務改革」に関する理解を確認する。「負荷分散。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 復旧対策である。
- イ. BPRIはBusiness Process Reengineeringで、業務プロセスを抜本的に再設計する。
- ウ. 性能・可用性向上の技術である。
- エ. 処理能力向上の技術的対策にすぎない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「バックアップ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「BPR。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「単純な機器増設。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DX・BPR・情報システム戦略」の「業務改革」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。性能・可用性向上の技術である。BPRでは組織や業務ルールも含めて見直し、ITを有効活用して全体最適を目指す。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0064 システム戦略・システム企画 > DX・BPR・情報システム戦略 | 難易度：標準

「DX・BPR・情報システム戦略」を復習している。「ネットワークを停止する。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 効率が低下する。
- イ. データ活用が難しくなる。
- ウ. ルールが明確な反復操作はRPAで自動化しやすい。
- エ. 業務遂行を妨げる。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「全業務を手作業へ戻す。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「データを紙だけで管理する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「RPAを用いて定型操作を自動化する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「DX・BPR・情報システム戦略」の「定型業務自動化」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。業務遂行を妨げる。ただし業務そのものに無駄がある場合は、BPRなどでプロセス自体を見直すことも重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0065

システム戦略・システム企画 > DX・BPR・情報システム戦略 | 難易度：応用

「DXを理解する」ために、「DX。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. DXはデジタル技術を活用して業務や組織、製品・サービス、ビジネスモデルの変革を目指す。
- イ. アナログ情報のデジタル化にとどまる。
- ウ. 復旧対策である。
- エ. 脆弱性対策である。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「単なるデジタイゼーションだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「バックアップ運用。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「パッチ管理。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DX・BPR・情報システム戦略」の「価値変革」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。DXはデジタル技術を活用して業務や組織、製品・サービス、ビジネスモデルの変革を目指す。DXでは技術導入自体ではなく、顧客価値や競争力の変革につながるかが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0066

システム戦略・システム企画 > DX・BPR・情報システム戦略 | 難易度：標準

「DX・BPR・情報システム戦略」の「全体最適」を確認する。次の選択「一つのサーバのCPU構成だけを最適化する。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 開発工程管理だけの手法ではない。
- イ. 対象範囲が局所的すぎる。
- ウ. EAは企業全体の業務、データ、アプリケーション、技術を体系化して管理する。
- エ. 全体最適に反する。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は元の論点では「テスト工程だけを管理する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「組織全体の業務とシステムを統一的にモデル化し、全体最適の観点から改善する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「各部門のシステムを互いに無関係に増やす。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DX・BPR・情報システム戦略」の「全体最適」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。対象範囲が局所的すぎる。現状と将来像をモデル化し、業務とITの整合を図る。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0067 システム戦略・システム企画 > DX・BPR・情報システム戦略 | 難易度：基礎

「DX・BPR・情報システム戦略」の演習で「ビジネスアーキテクチャ。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 業務とアプリケーションの関係を体系化する。
- イ. ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク等の技術基盤を体系化する。
- ウ. 組織目標や業務プロセスを体系化する。
- エ. データアーキテクチャは業務に必要なデータ構造と関係を整理する。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「アプリケーションアーキテクチャ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「テクノロジーアーキテクチャ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

エ：この説明は元の論点では「データアーキテクチャ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「DX・BPR・情報システム戦略」の「データアーキテクチャ」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。組織目標や業務プロセスを体系化する。EAでは複数アーキテクチャを関連付けて全体像を表現する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0068 システム戦略・システム企画 > DX・BPR・情報システム戦略 | 難易度：標準

「テクノロジーアーキテクチャ」に関する理解を確認する。「組織目標や業務を体系化するビジネスアーキテクチャ。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. データアーキテクチャは業務に必要なデータ構造と関連を体系化する。
- イ. アプリケーションアーキテクチャは業務とアプリケーションの関係を体系化する。
- ウ. テクノロジーアーキテクチャはクラウド、ネットワーク、OSなど技術基盤を体系化する。
- エ. ビジネスアーキテクチャは組織目標や業務プロセスを体系化する。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「業務に必要なデータを体系化するデータアーキテクチャ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「業務とアプリケーションの関係を体系化するアプリケーションアーキテクチャ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は元の論点では「ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなどを体系化するテクノロジーアーキテクチャ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「DX・BPR・情報システム戦略」の「テクノロジーアーキテクチャ」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。ビジネスアーキテクチャは組織目標や業務プロセスを体系化する。技術標準を定めることでシステム間の整合性や運用効率を高めやすい。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0069

システム戦略・システム企画 > DX・BPR・情報システム戦略 | 難易度：応用

「DX・BPR・情報システム戦略」の演習で「経営戦略との整合、期待効果、影響、期間、実現性、リスクなどを比較して優先順位を決める。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. IT投資は事業目標への貢献と実現性、リスクなどを総合評価する。
- イ. 価値や緊急性を反映できない。
- ウ. 価格の高さは価値を保証しない。
- エ. 予算制約や全体最適を無視する。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「申請順だけで決める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「最も高額な案件を必ず優先する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「各部門の希望を全て無条件に採用する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DX・BPR・情報システム戦略」の「投資優先順位」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。IT投資は事業目標への貢献と実現性、リスクなどを総合評価する。戦略的な投資ポートフォリオとして選択と集中を行うことが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0070

システム戦略・システム企画 > DX・BPR・情報システム戦略 | 難易度：標準

「BPOを理解する」ために、「ERP。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 仮想専用網である。
- イ. 統合業務システムである。
- ウ. BPOはBusiness Process Outsourcingで、業務プロセスを外部へ委託する。
- エ. 定型操作の自動化技術である。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は元の論点では「VPN。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「BPO。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「RPA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DX・BPR・情報システム戦略」の「業務外部委託」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。統合業務システムである。BPOではコア業務への集中や専門事業者の活用が期待できるが、委託先管理も必要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0071 システム戦略・システム企画 > DX・BPR・情報システム戦略 | 難易度：基礎

「DX・BPR・情報システム戦略」の「モニタリング」を確認する。次の選択「IT投資額を必ず増やすため。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 評価手段を失う。
- イ. 戦略は策定だけでなく実行状況を評価・改善する必要がある。
- ウ. 増額自体が目的ではない。
- エ. 実行管理ができない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「既存KPIを全て削除するため。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「戦略の実行状況をモニタリングし、目標実現へ向けて必要な修正を行うため。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「戦略策定後は実績を見ないため。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DX・BPR・情報システム戦略」の「モニタリング」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。増額自体が目的ではない。 モニタリング指標や差異分析を用いて戦略遂行を管理する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0072 システム戦略・システム企画 > DX・BPR・情報システム戦略 | 難易度：標準

「DX・BPR・情報システム戦略」の演習で「現行業務を調査せず製品だけ先に決める。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 複雑性や保守コストが増える可能性がある。
- イ. 画面統一だけでは業務改革にならない。
- ウ. 標準化前に現状を可視化し、事業に必要な差異を見極める必要がある。
- エ. 業務適合性を判断できない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「各支店の独自手順を確認せずそのまま全て実装する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「全支店へ同一画面を強制すれば業務分析は不要とする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「業務プロセスを可視化し、必要な差異と不要な差異を整理して標準化を検討する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「DX・BPR・情報システム戦略」の「全体最適」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。業務適合性を判断できない。 全体最適では業務とシステムを一体として見直す。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0073 システム戦略・システム企画 > システム化計画・要件定義 | 難易度：基礎

「企画」に関する理解を確認する。「情報システム戦略に基づき、対象業務、目的、範囲、効果、費用、スケジュールなどを具体化する。」という結論を支持する説明として最も適切なものはどれか。

- ア. システム化計画は戦略を具体的なシステム化案件へ落とし込む。
- イ. 実装詳細に限定されない。
- ウ. テスト工程だけの文書ではない。
- エ. 投資前に目的と効果を明確にする必要がある。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「プログラムの変数名だけを定める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「テスト結果だけを記録する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「運用開始後に初めて投資目的を考える。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム化計画・要件定義」の「企画」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。システム化計画は戦略を具体的なシステム化案件へ落とし込む。計画段階で実現可能性や投資効果を評価する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0074 システム戦略・システム企画 > システム化計画・要件定義 | 難易度：標準

「システム化計画・要件定義」を復習している。「現行課題を分析せずランダムに決める。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 限られた資源で成果を最大化するには複数観点で優先順位を付ける必要がある。
- イ. 合理的な選定にならない。
- ウ. 件数だけでは事業価値を判断できない。
- エ. 高価格が高価値を意味しない。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「経営戦略への貢献、効果、緊急性、実現性、リスクなどを評価して優先順位を付ける。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「最も要望件数が多いものだけを無条件に選ぶ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「開発費が最も高いものを必ず選ぶ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム化計画・要件定義」の「優先順位」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。合理的な選定にならない。システム化対象は戦略と業務課題のつながりを明確にして決定する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0075 システム戦略・システム企画 > システム化計画・要件定義 | 難易度：基礎

「業務要件を理解する」ために、「暗号鍵長だけ。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 技術構成の一要素である。
- イ. 業務要件は業務目的や必要な業務機能、ルール、制約を表す。
- ウ. セキュリティ要件の一部である。
- エ. 実装詳細に限定される。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「物理サーバ型番だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「業務要件。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「ソースコード仕様だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム化計画・要件定義」の「業務ニーズ」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。セキュリティ要件の一部である。業務要件を明確にした上でシステム要件へ具体化する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0076 システム戦略・システム企画 > システム化計画・要件定義 | 難易度：標準

「システム化計画・要件定義」の「データ流れ」を確認する。次の選択「クラス図だけ。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. データ同士の構造・関係を表す。
- イ. 日程を表す。
- ウ. DFDはData Flow Diagramで、業務やシステム内のデータの流れと処理を表す。
- エ. オブジェクトの静的構造を表す。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「ER図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「ガントチャート。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「DFD。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「システム化計画・要件定義」の「データ流れ」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。オブジェクトの静的構造を表す。構造化分析ではDFDを用いて業務処理とデータの流れを可視化する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0077 システム戦略・システム企画 > システム化計画・要件定義 | 難易度：応用

「システム化計画・要件定義」を復習している。「決定表。」と判断できる理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 決定表は複数条件と処理結果の組合せを表形式で整理する。
- イ. 数量比較のグラフである。
- ウ. 財務諸表である。
- エ. ネットワーク経路情報である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「棒グラフ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「貸借対照表。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「ルーティングテーブル。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム化計画・要件定義」の「複雑条件」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。決定表は複数条件と処理結果の組合せを表形式で整理する。条件分岐が多い業務ルールでは決定表により漏れや矛盾を確認しやすい。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0078 システム戦略・システム企画 > システム化計画・要件定義 | 難易度：標準

「フィージビリティ」に関する理解を確認する。「要求されたので検証せずそのまま承認する。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 費用や品質、リスクも重要である。
- イ. 無理な計画になる可能性がある。
- ウ. 要件は望みさだけでなく実現可能性も確認する必要がある。
- エ. 合意形成にならない。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「納期だけを見て他の制約を無視する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「技術、期間、費用、体制などから実現可能性を検証し、必要なら代替案を協議する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「実現できないと即断し理由を説明しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム化計画・要件定義」の「フィージビリティ」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。無理な計画になる可能性がある。要件確認では実現可能性、妥当性、戦略整合性などを評価する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0079 システム戦略・システム企画 > システム化計画・要件定義 | 難易度：基礎

「システム化計画・要件定義」を復習している。「一つの部門だけで全社要件を決める。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. レビューできない。
- イ. 手戻りが大きくなる。
- ウ. 要件漏れを招きやすい。
- エ. 複数部門へ影響するシステムでは利害関係者全体の要件確認が必要である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「要件文書を関係者へ見せない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「運用開始後まで他部門へ確認しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

エ：この説明は元の論点では「関係するステークホルダを特定し、部門横断で要件を確認・合意する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「システム化計画・要件定義」の「ステークホルダ合意」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。要件漏れを招きやすい。要件の妥当性や整合性はステークホルダとの合意を通じて確認する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0080 システム戦略・システム企画 > システム化計画・要件定義 | 難易度：標準

「非機能要件を企画段階で考慮できる」ために、「商品価格だけ。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 経営上重要だが直接の非機能要件ではない。
- イ. システム要件の内容ではない。
- ウ. 稼働時間や応答時間はシステム品質に関する非機能要件である。
- エ. システム品質条件ではない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「企業理念だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「株主構成だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は元の論点では「可用性や性能などの非機能要件。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「システム化計画・要件定義」の「品質要求」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。システム品質条件ではない。システム化計画では機能だけでなく性能、可用性、セキュリティ、運用性なども考慮する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0081 システム戦略・システム企画 > システム化計画・要件定義 | 難易度：応用

「システム化計画・要件定義」の「戦略との追跡」を確認する。次の判断「不要機能を見つけやすくし、変更時に事業目的への影響を確認できる。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 要件と上位目的の対応を管理すると価値の根拠と変更影響を確認しやすい。
- イ. 変更統制を支援するが禁止するものではない。
- ウ. テストは必要である。
- エ. 性能向上とは直接関係しない。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「全変更を禁止できる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「テストを不要にできる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「サーバ性能が自動的に向上する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「システム化計画・要件定義」の「戦略との追跡」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。要件と上位目的の対応を管理すると価値の根拠と変更影響を確認しやすい。 戦略、業務要件、システム要件のつながりを保つことが企画品質に重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0082 システム戦略・システム企画 > システム化計画・要件定義 | 難易度：標準

「システム化計画・要件定義」の演習で「パッケージの価格だけを決めるため。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 監査省略とは無関係である。
- イ. 機能適合性の評価が主目的である。
- ウ. 要件と標準機能の適合・差異を整理することで導入方針を判断できる。
- エ. 標準機能を活用できずコスト増につながる。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「セキュリティ監査を省略するため。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「Fit & Gapを明らかにし、業務変更や追加開発の必要性を判断するため。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「全ての業務を無条件に追加開発するため。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「システム化計画・要件定義」の「Fit & Gap」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。機能適合性の評価が主目的である。 パッケージ導入では業務側を標準へ合わせる選択肢も含めて検討する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0083 システム戦略・システム企画 > 調達・RFP・投資評価 | 難易度：基礎

「情報提供依頼」に関する理解を確認する。「RFQ。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. サービスレベル合意である。
- イ. RFIはRequest For Informationで、調達前の情報収集に用いる。
- ウ. 見積価格を依頼する文書である。
- エ. 具体的な提案を依頼する文書である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「SLA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「RFI。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「RFP。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「調達・RFP・投資評価」の「情報提供依頼」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。見積価格を依頼する文書である。 市場情報が不足している段階ではRFIを用いて選択肢を把握できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0084 システム戦略・システム企画 > 調達・RFP・投資評価 | 難易度：標準

「調達・RFP・投資評価」を復習している。「CRL。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 情報収集が中心の文書である。
- イ. ソフトウェア部品表である。
- ウ. RFPはRequest For Proposalで、具体的な提案を求める。
- エ. 証明書失効一覧である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「RFI。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「SBOM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「RFP。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「調達・RFP・投資評価」の「提案依頼」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。証明書失効一覧である。 RFPには調達対象、要求事項、条件、評価方法などを明確に記載する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0085 システム戦略・システム企画 > 調達・RFP・投資評価 | 難易度：標準

「RFQを理解する」ために、「RFQ。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. RFQはRequest For Quotationで、見積提出を依頼する。
- イ. 提案内容全般を求める文書である。
- ウ. 情報収集用である。
- エ. 事業継続計画である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「RFPだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「RFI。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「BCP。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「調達・RFP・投資評価」の「見積依頼」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。RFQはRequest For Quotationで、見積提出を依頼する。 調達目的と情報の具体度に応じてRFI、RFP、RFQを使い分ける。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0086 システム戦略・システム企画 > 調達・RFP・投資評価 | 難易度：応用

「調達・RFP・投資評価」の「重み付け評価」を確認する。次の選択「価格だけで全てを決める。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 重み付けした共通基準を事前に定めると選定の透明性と説明可能性を高められる。
- イ. 品質や実現性を見落とす。
- ウ. 合理的根拠がない。
- エ. 公平性が損なわれる。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「事前に評価項目と重みを定め、各提案を同じ基準で比較評価する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「最初に訪問したベンダーへ自動的に決める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「評価基準を選定後に都合よく変更する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「調達・RFP・投資評価」の「重み付け評価」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。品質や実現性を見落とす。 提案評価では要求事項への適合度とリスクを含めて総合判断する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0087 システム戦略・システム企画 > 調達・RFP・投資評価 | 難易度：基礎

「調達・RFP・投資評価」の演習で「MTBF。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 脆弱性深刻度指標である。
- イ. TCOはTotal Cost of Ownershipで、所有・利用期間全体の費用を捉える。
- ウ. 平均故障間隔である。
- エ. 投資利益率であり費用総額そのものではない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「CVSS。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「TCO。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「ROIだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「調達・RFP・投資評価」の「総所有費用」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。平均故障間隔である。初期費用が安くても運用費が高い場合があるため、ライフサイクル全体で比較する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0088 システム戦略・システム企画 > 調達・RFP・投資評価 | 難易度：標準

「内外作基準」に関する理解を確認する。「保守や将来変更を考慮せず初期費用だけで決める。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 自社能力や納期によっては外部調達が適切な場合もある。
- イ. 価格だけでは品質や継続性を評価できない。
- ウ. 内外作の選択では複数の条件を比較し、事業とシステムの目的に最も適した方法を選ぶ。
- エ. ライフサイクル全体の影響を見落とす。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「常に社内開発を選ぶ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「常に最安の外部委託を選ぶ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「自社の技術力、要件適合度、費用、期間、リスク、保守体制などを総合して調達方法を選ぶ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「調達・RFP・投資評価」の「内外作基準」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。ライフサイクル全体の影響を見落とす。調達計画では、既成製品・サービスの購入、組織内部での開発、外部委託などから、要件と条件に応じた方法を選択する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0089 システム戦略・システム企画 > 調達・RFP・投資評価 | 難易度：応用

「調達・RFP・投資評価」の演習で「導入前に定めた効果指標と実績を比較し、差異の原因を分析して次の投資判断へ反映する。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. 投資効果を測定・評価することで、投資判断の妥当性や改善点を確認できる。
- イ. 導入自体は目的ではなく、期待効果の実現が重要である。
- ウ. 費用だけでは投資価値を判断できない。
- エ. 差異分析を行わなければ改善へつながらない。

答え・解説 正答：ア

- ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- イ：この説明は元の論点では「導入した時点で成功とみなし、効果を測定しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「初期費用だけを記録し、業務効果は確認しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「計画値と実績値が異なっても分析しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「調達・RFP・投資評価」の「投資効果評価」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。投資効果を測定・評価することで、投資判断の妥当性や改善点を確認できる。 情報システム投資は経営戦略との整合や期待効果を踏まえて計画し、実施後も指標を用いて効果を評価することが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0090 システム戦略・システム企画 > 調達・RFP・投資評価 | 難易度：標準

「契約締結時の確認事項を理解する」ために、「納入時期だけ確認し、費用や役割分担は定めない。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 契約前に重要条件を明確にして合意する必要がある。
- イ. 契約上の責任や費用条件が不明確になる。
- ウ. 調達契約では納入内容、費用、時期、役割分担などを確認して締結する。
- エ. 後の紛争や認識違いを防ぐため条件を明文化する必要がある。

答え・解説 正答：イ

- ア：この説明は元の論点では「契約後に内容を決めればよいので、事前確認は行わない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- ウ：この説明は元の論点では「納入対象、費用、納入時期、発注元とベンダーの役割分担などを明確にする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「口頭合意だけとし、契約条件は記録しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「調達・RFP・投資評価」の「契約条件」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。契約上の責任や費用条件が不明確になる。 調達では提案評価・選定後、納入システム、費用、納入時期、発注元とベンダーの役割分担などを確認して契約を締結する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0091 技術戦略・ビジネスインダストリ > 技術戦略・技術ロードマップ | 難易度：基礎

「技術戦略・技術ロードマップ」の「技術経営」を確認する。次の選択「RBAC。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. MOTはManagement of Technologyで、技術を事業価値へ結び付ける技術経営の考え方である。
- イ. 供給連鎖管理である。
- ウ. 役割ベースのアクセス制御である。
- エ. サービスレベル合意である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は元の論点では「MOT。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「SCM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- エ：この説明は元の論点では「SLA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「技術戦略・技術ロードマップ」の「技術経営」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。役割ベースのアクセス制御である。技術戦略では研究開発投資そのものだけでなく、技術と市場を結び付けて価値創出・利益化する視点が重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0092 技術戦略・ビジネスインダストリ > 技術戦略・技術ロードマップ | 難易度：標準

「技術戦略・技術ロードマップ」の演習で「職務分掌。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. オープンイノベーションは社外の知識・技術・アイデアも活用して価値創出を促進する。
- イ. 外部資源を使わず自社内部だけで完結させる考え方である。
- ウ. 無統制な作業範囲拡大である。
- エ. 内部統制の権限分離である。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は元の論点では「オープンイノベーション。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「完全な自前主義。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「スコープクリープ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「技術戦略・技術ロードマップ」の「外部資源活用」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。内部統制の権限分離である。技術開発戦略では、共同研究や技術提携などを通じて外部資源を柔軟に活用する場合がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0093 技術戦略・ビジネスインダストリ > 技術戦略・技術ロードマップ | 難易度：標準

「既存顧客最適化」に関する理解を確認する。「イノベーションのジレンマ。」という結論を支持する説明として最も適切なものはどれか。

- ア. 既存顧客への合理的な最適化が破壊的な新技術への対応を遅らせる現象を説明する概念である。
- イ. 計算資源の相互待ち状態である。
- ウ. データのばらつきを示す統計量である。
- エ. 生産規模拡大による単位コスト低下の考え方である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「デッドロック。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「標準偏差。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「規模の経済。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「技術戦略・技術ロードマップ」の「既存顧客最適化」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。既存顧客への合理的な最適化が破壊的な新技術への対応を遅らせる現象を説明する概念である。技術戦略では現在の主要市場だけでなく、新技術が生む将来市場や事業モデルも継続的に評価する必要がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0094 技術戦略・ビジネスインダストリ > 技術戦略・技術ロードマップ | 難易度：応用

「技術戦略・技術ロードマップ」を復習している。「RFIだけ。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 価値を生み出せるかの検証に重点を置く。
- イ. 市場やベンダー情報を収集する文書である。
- ウ. サービスレベルの合意である。
- エ. PoCはProof of Conceptで、技術やアイデアが実現可能かを小規模に検証する。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「PoV。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「SLA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「PoC。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「技術戦略・技術ロードマップ」の「概念実証」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。市場やベンダー情報を収集する文書である。PoCは本格投資前に技術的不確実性を下げるために使われる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0095

技術戦略・ビジネスインダストリ > 技術戦略・技術ロードマップ | 難易度：基礎

「PoVを理解する」ために、「PoC。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. PoVはProof of Valueで、技術導入が事業や利用者に価値を生むかを検証する。
- イ. 日程計画手法である。
- ウ. 主に技術的な実現可能性を確認する。
- エ. 公開鍵基盤である。

答え・解説

正答：ウ

- ア：この説明は元の論点では「PoV。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「PERT。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- エ：この説明は元の論点では「PKI。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「技術戦略・技術ロードマップ」の「価値実証」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。主に技術的な実現可能性を確認する。 技術的に実現できても事業価値がなければ本格導入の妥当性は低いため、PoVの視点が重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0096

技術戦略・ビジネスインダストリ > 技術戦略・技術ロードマップ | 難易度：標準

「技術戦略・技術ロードマップ」の「時系列計画」を確認する。次の選択「WBSだけ。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. リスク情報を管理する。
- イ. 技術ロードマップは将来像と技術開発の道筋を時系列で描く。
- ウ. データモデルを表す。
- エ. プロジェクト作業の階層分解である。

答え・解説

正答：エ

- ア：この説明は元の論点では「リスク登録簿。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「技術ロードマップ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「ER図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「技術戦略・技術ロードマップ」の「時系列計画」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。プロジェクト作業の階層分解である。 技術ロードマップは市場ニーズや製品計画と技術開発を整合させ、研究開発投資の優先順位付けに役立つ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0097 技術戦略・ビジネスインダストリ > 技術戦略・技術ロードマップ | 難易度：応用

「技術戦略・技術ロードマップ」を復習している。「経営戦略、市場ニーズ、技術優位性、成功可能性、必要資源などを比較して優先順位を付ける。」と判断できる理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 技術開発投資は経営戦略や市場性、技術性、リスクなどを総合的に評価する必要がある。
- イ. 高コストが高価値を保証しない。
- ウ. テーマごとの期待効果や必要資源が異なる。
- エ. 事業価値との関係を反映できない。

答え・解説 正答：ア

- ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- イ：この説明は元の論点では「最も費用が高いテーマを必ず選ぶ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「全テーマへ同額を機械的に配分する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「担当者の希望順だけで決める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「技術戦略・技術ロードマップ」の「資源配分」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。技術開発投資は経営戦略や市場性、技術性、リスクなどを総合的に評価する必要がある。技術開発計画では有限な経営資源を戦略的に配分する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0098 技術戦略・ビジネスインダストリ > 技術戦略・技術ロードマップ | 難易度：標準

「市場形成」に関する理解を確認する。「他社製品との接続を必ず不可能にする。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 市場拡大を妨げる。
- イ. 標準化の目的と逆である。
- ウ. 技術開発戦略とは両立し得る。
- エ. 標準化は互換性や普及を促し、エコシステム形成につながる場合がある。

答え・解説 正答：イ

- ア：この説明は元の論点では「利用企業を一社だけに限定する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- ウ：この説明は元の論点では「研究開発を全面停止する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「技術の普及や互換性向上を通じて市場形成と競争優位につなげる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「技術戦略・技術ロードマップ」の「市場形成」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。標準化の目的と逆である。標準化戦略は知的財産戦略や製品戦略と組み合わせて考える必要がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0099

技術戦略・ビジネスインダストリ > e-ビジネス・ビジネスシステム | 難易度：基礎

「e-ビジネス・ビジネスシステム」を復習している。「DNS。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. POSはPoint of Saleで、販売時点の情報を収集・活用する。
- イ. 設計支援システムである。
- ウ. 名前解決システムである。
- エ. 公開鍵基盤である。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「POSシステム。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「CAD。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

エ：この説明は元の論点では「PKI。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「e-ビジネス・ビジネスシステム」の「販売時点情報」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。名前解決システムである。POSデータは販売分析や在庫補充、商品政策などへ活用できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0100

技術戦略・ビジネスインダストリ > e-ビジネス・ビジネスシステム | 難易度：標準

「ワークフローシステムを理解する」ために、「IDS。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. ネットワーク経路制御用である。
- イ. ワークフローシステムは定型的な申請・承認などの業務手順を電子化する。
- ウ. 設計作業支援用である。
- エ. 侵入検知システムである。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は元の論点では「ルーティングプロトコル。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「ワークフローシステム。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は元の論点では「CADシステム。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「e-ビジネス・ビジネスシステム」の「電子承認」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。侵入検知システムである。承認ルートや処理状況を可視化することで事務効率や内部統制を支援できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0101 技術戦略・ビジネスインダストリ > e-ビジネス・ビジネスシステム | 難易度：基礎

「e-ビジネス・ビジネスシステム」の「企業間データ交換」を確認する。次の判断「EDI。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. EDIはElectronic Data Interchangeで、企業間の取引データを電子的に交換する仕組みである。
- イ. 企業内基幹業務統合システムである。
- ウ. ストレージ冗長化方式である。
- エ. 端末の検知・対応製品である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「ERPだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「RAID。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「EDR。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「e-ビジネス・ビジネスシステム」の「企業間データ交換」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。EDIはElectronic Data Interchangeで、企業間の取引データを電子的に交換する仕組みである。EDIではデータ形式や通信、業務運用の標準化が重要になる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0102 技術戦略・ビジネスインダストリ > e-ビジネス・ビジネスシステム | 難易度：標準

「e-ビジネス・ビジネスシステム」の演習で「FTPサーバだけ。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 通信路保護の技術でありEDIそのものではない。
- イ. ファイル転送機能だけでは取引業務全体を表さない。
- ウ. 顧客関係管理システムである。
- エ. Web-EDIはWeb技術を利用して企業間の受発注などを行う。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「VPNだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「CRM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「Web-EDI。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「e-ビジネス・ビジネスシステム」の「Web利用受発注」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。ファイル転送機能だけでは取引業務全体を表さない。Web技術を利用することで比較的導入しやすい一方、認証や取引データ保護も必要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0103 技術戦略・ビジネスインダストリ > e-ビジネス・ビジネスシステム | 難易度：応用

「e-Procurement」に関する理解を確認する。「デフラグ。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 電子調達には調達プロセスを電子化し、見積・発注などを効率化する。
- イ. 社内情報共有が中心である。
- ウ. 記憶領域の整理処理である。
- エ. DNSの真正性確認技術である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「電子調達システム。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「グループウェアだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「DNSSEC。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「e-ビジネス・ビジネスシステム」の「e-Procurement」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。記憶領域の整理処理である。e-ビジネスでは受発注や調達、決済など取引プロセスをネットワーク上で実現する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0104 技術戦略・ビジネスインダストリ > e-ビジネス・ビジネスシステム | 難易度：標準

「e-ビジネス・ビジネスシステム」を復習している。「DNSシステム。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. QRコード決済はキャッシュレス決済の一形態で、電子決済システムに含まれる。
- イ. 製造工程を管理するシステムである。
- ウ. IT資産の構成を管理する。
- エ. 名前解決を行う。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「電子決済システム。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「生産管理システム。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「構成管理システム。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「e-ビジネス・ビジネスシステム」の「電子決済」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。名前解決を行う。電子商取引では決済方法の安全性、利便性、本人確認なども重要になる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0105

技術戦略・ビジネスインダストリ > e-ビジネス・ビジネスシステム | 難易度：基礎

「XBRLの用途を理解する」ために、「XBRL。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. XBRLは財務・経営情報の電子的な記述・交換に用いられる標準である。
- イ. 電子メール送信用プロトコルである。
- ウ. ネットワーク管理用プロトコルである。
- エ. Webページ記述言語であり財務情報標準そのものではない。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「SMTP。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「SNMP。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「HTMLだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「e-ビジネス・ビジネスシステム」の「財務情報交換」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。XBRLは財務・経営情報の電子的な記述・交換に用いられる標準である。標準化された財務情報は企業間・投資家向けのデータ交換や自動分析に役立つ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0106

技術戦略・ビジネスインダストリ > e-ビジネス・ビジネスシステム | 難易度：標準

「e-ビジネス・ビジネスシステム」の「トレーサビリティ」を確認する。次の選択「DNSラウンドロビン。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 仮想記憶管理方式である。
- イ. 名前解決を利用する分散方式である。
- ウ. 高速記憶装置である。
- エ. ブロックチェーンは複数主体で共有する取引履歴の改ざん耐性や追跡性向上に活用できる。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は元の論点では「ページング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「キャッシュメモリ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「ブロックチェーン。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「e-ビジネス・ビジネスシステム」の「トレーサビリティ」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。名前解決を利用する分散方式である。ビジネスではトレーサビリティやスマートコントラクトなどへの活用例がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0107 技術戦略・ビジネスインダストリ > e-ビジネス・ビジネスシステム | 難易度：応用

「e-ビジネス・ビジネスシステム」の演習で「CAD。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. CGMはConsumer Generated Mediaで、消費者・利用者が生成するコンテンツを中心とするメディアである。
- イ. 生産情報統合の考え方である。
- ウ. 設計支援システムである。
- エ. 顧客関係管理である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は元の論点では「CGM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「CIM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- エ：この説明は元の論点では「CRM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「e-ビジネス・ビジネスシステム」の「消費者生成メディア」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。設計支援システムである。SNSや口コミサイトなどでは利用者生成コンテンツが企業評価や購買行動へ影響する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0108 技術戦略・ビジネスインダストリ > e-ビジネス・ビジネスシステム | 難易度：標準

「データ交換標準」に関する理解を確認する。「取引先ごとに独自形式をさらに増やす。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 自動化・効率化を損なう。
- イ. データ交換標準を整備すると企業間システム連携の効率と正確性を高めやすい。
- ウ. 意味の不一致による誤処理が増える。
- エ. 変換コストがさらに増える。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は元の論点では「電子取引をやめて全て電話連絡に戻す。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「取引データの表現形式や運用規約を標準化し、変換の種類を減らす。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「データ項目の意味を定義しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「e-ビジネス・ビジネスシステム」の「データ交換標準」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。変換コストがさらに増える。EDIでは技術仕様だけでなく情報表現や業務運用の標準化も重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0109

技術戦略・ビジネスインダストリ > AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム | 難易度：基礎

「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の演習で「人間中心のAI。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. 人間中心のAIでは人間の尊厳・権利・主体性を尊重する。
- イ. 品質や公平性を損なう可能性がある。
- ウ. AI利用では説明責任も重要となる。
- エ. 人間による適切な関与を失う。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「データを一切検証しない考え方。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「説明責任を不要とする考え方。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「AIへ全判断を無条件に委ねる考え方。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の「AI原則」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。人間中心のAIでは人間の尊厳・権利・主体性を尊重する。AI利活用では性能だけでなく公平性、透明性、説明責任、人間の関与などを考慮する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0110

技術戦略・ビジネスインダストリ > AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム | 難易度：標準

「AIのバイアスを理解する」ために、「精度が高ければ公平性は確認しない。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 差別的結果を放置する可能性がある。
- イ. 平均精度だけでは属性間の不公平を把握できない。
- ウ. データにも偏りが含まれる場合がある。
- エ. AIは学習データや設計上の偏りを反映することがあるため、公平性の検証が必要である。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は元の論点では「不利な評価を受けた理由を一切調べない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「学習データは常に中立なので確認不要とする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「学習データや評価結果の偏りを検証し、公平性の観点からデータ・モデル・運用を見直す。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の「公平性」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。平均精度だけでは属性間の不公平を把握できない。AI利活用では精度と同時に公平性・透明性・社会的影響を評価する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0111 技術戦略・ビジネスインダストリ > AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム | 難易度：基礎

「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の「説明責任」を確認する。次の選択「ロードバランシング。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. AIの判断根拠を人が理解・説明できるようにすることは説明可能性に関係する。
- イ. データ圧縮の性質である。
- ウ. 負荷分散技術である。
- エ. 同時実行制御である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は元の論点では「説明可能性。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「可逆圧縮。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- エ：この説明は元の論点では「排他制御。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の「説明責任」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。負荷分散技術である。 高影響なAI利用では、判断の透明性や説明責任を確保することが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0112 技術戦略・ビジネスインダストリ > AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム | 難易度：標準

「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の演習で「もっと長い指示を与えれば検証は不要とする。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 改善やリスク管理につながらない。
- イ. 生成AIはもっともらしい誤情報を生成することがあるため、重要用途では検証が必要である。
- ウ. 誤情報を業務へ持ち込む危険がある。
- エ. プロンプト改善だけで誤りを完全には排除できない。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は元の論点では「誤りが見つかっても記録しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「重要な事実や根拠は信頼できる情報源で検証し、人間が最終確認する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「AI出力は常に正しいのでそのまま提出する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の「出力検証」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。プロンプト改善だけで誤りを完全には排除できない。 AIは補助ツールとして利用し、影響の大きい判断では人間による確認を組み込む。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0113 技術戦略・ビジネスインダストリ > AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム | 難易度：応用

「仮想モデル」に関する理解を確認する。「デジタルツイン。」という結論を支持する説明として最も適切なものはどれか。

- ア. デジタルツインは現実世界の設備や環境をデジタル空間に対応させ、分析や予測に利用する。
- イ. 仮想専用網である。
- ウ. プロジェクト作業分解構造である。
- エ. 名前解決システムである。

答え・解説 正答：ア

- ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- イ：この説明は元の論点では「VPN。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「WBS。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「DNS。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の「仮想モデル」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。デジタルツインは現実世界の設備や環境をデジタル空間に対応させ、分析や予測に利用する。IoTセンサーとシミュレーションを組み合わせることで運用最適化や予知保全へ活用できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0114 技術戦略・ビジネスインダストリ > AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム | 難易度：標準

「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」を復習している。「単純なバックアップ。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 現実世界との制御ループを持たない。
- イ. データ保全の仕組みである。
- ウ. 真正性確認技術にすぎない。
- エ. CPSは物理世界とサイバー空間を密接に連携させるシステムである。

答え・解説 正答：イ

- ア：この説明は元の論点では「静的Webサイト。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- ウ：この説明は元の論点では「電子署名だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「サイバーフィジカルシステム。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の「サイバーフィジカル」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。データ保全の仕組みである。IoT、AI、制御技術を組み合わせて物理システムの状態を最適化する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0115

技術戦略・ビジネスインダストリー > AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム | 難易度：基礎

「M2Mを理解する」ために、「EDIだけ。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

ア. M2MはMachine to Machineで、機器同士が自動的に通信する仕組みを指す。

イ. 企業と消費者間の商取引形態である。

ウ. 企業間取引データ交換であり機器間通信そのものとは異なる。

エ. 職場内教育である。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「M2M。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「B2C。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

エ：この説明は元の論点では「OJT。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の「機器間通信」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。企業間取引データ交換であり機器間通信そのものとは異なる。M2Mはスマートファクトリーや設備監視など産業分野で利用される。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0116

技術戦略・ビジネスインダストリー > AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム | 難易度：標準

「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の「製造最適化」を確認する。次の選択「通信機能を全て停止した工場。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

ア. スマートファクトリーはIoT、AI、データ分析などを活用して製造全体を高度化する。

イ. データ連携や最適化を行わない。

ウ. 文書電子化だけでは十分でない。

エ. ネットワーク化と逆方向である。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は元の論点では「スマートファクトリー。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「単独運転だけの工場。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は元の論点では「ペーパーレスだけを実施した工場。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の「製造最適化」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。ネットワーク化と逆方向である。設備データの可視化、予知保全、生産最適化などが代表的な活用例である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0117 技術戦略・ビジネスインダストリ > AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム | 難易度：応用

「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」を復習している。「CAD。」と判断できる理由として最も適切なものはどれか。

- ア. CADはComputer Aided Designで、設計・製図を支援する。
- イ. 製造工程を支援する。
- ウ. 顧客関係管理である。
- エ. 解析・シミュレーションを支援する。

答え・解説 正答：ア

- ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- イ：この説明は元の論点では「CAM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「CRM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「CAE。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の「設計支援」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。CADはComputer Aided Designで、設計・製図を支援する。 エンジニアリングシステムではCAD、CAE、CAMなどが設計・解析・製造の各工程を支援する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0118 技術戦略・ビジネスインダストリ > AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム | 難易度：標準

「解析支援」に関する理解を確認する。「POS。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 主に設計・製図を支援する。
- イ. 販売時点情報システムである。
- ウ. 主に製造工程を支援する。
- エ. CAEはComputer Aided Engineeringで、解析・シミュレーションなどを支援する。

答え・解説 正答：イ

- ア：この説明は元の論点では「CADだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- ウ：この説明は元の論点では「CAM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「CAE。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の「解析支援」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。販売時点情報システムである。 CAEを用いることで試作回数削減や設計品質向上が期待できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0119 技術戦略・ビジネスインダストリ > AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム | 難易度：基礎

「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」を復習している。「CAE。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. CAMはComputer Aided Manufacturingで、製造工程をコンピュータで支援する。
- イ. 顧客関係管理である。
- ウ. 解析支援システムである。
- エ. セキュリティログ管理基盤である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は元の論点では「CAM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「CRM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- エ：この説明は元の論点では「SIEM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の「製造支援」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。解析支援システムである。CAD・CAE・CAMを連携させることで設計から製造までの効率化を図れる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0120 技術戦略・ビジネスインダストリ > AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム | 難易度：標準

「PDMを理解する」ために、「DHCP。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. Webアプリケーション防御装置である。
- イ. PDMはProduct Data Managementで、製品設計に関する各種データや版を管理する。
- ウ. 営業活動支援システムである。
- エ. IP設定を配布する。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は元の論点では「WAF。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「PDM。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「SFA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「AI利活用・IoT・エンジニアリングシステム」の「製品データ管理」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。IP設定を配布する。製品データの一元管理により設計変更の追跡や部門間連携を支援できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0121 法務・標準化 > 知的財産権 | 難易度：基礎

「知的財産権」の「権利発生」を確認する。次の判断「著作物を創作した時点で、原則として登録手続をしなくても著作権が発生する。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 日本の著作権は無方式主義で、著作物の創作によって権利が発生する。
- イ. 販売は権利発生要件ではない。
- ウ. 公開も権利発生要件ではない。
- エ. 特許権などの産業財産権と混同している。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「著作物を販売した時だけ著作権が発生する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「インターネットへ公開した時だけ著作権が発生する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「特許庁への登録が完了した時だけ著作権が発生する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「知的財産権」の「権利発生」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。日本の著作権は無方式主義で、著作物の創作によって権利が発生する。著作権と、出願・登録によって権利化する産業財産権との違いを区別することが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0122 法務・標準化 > 知的財産権 | 難易度：標準

「知的財産権」の演習で「商標権だけ。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 意匠は物品等のデザインを保護する。
- イ. 商標は商品・サービスの識別標識を保護する。
- ウ. 実用新案は物品の形状・構造等に係る考案を保護する。
- エ. プログラムは著作権法上の保護対象となり得るため、無断複製は著作権侵害となる可能性がある。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「意匠権だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「実用新案権だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「著作権。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「知的財産権」の「ソフトウェア保護」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。商標は商品・サービスの識別標識を保護する。ソフトウェアの権利保護では著作権や特許権、契約など複数の仕組みが関係する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0123 法務・標準化 > 知的財産権 | 難易度：基礎

「同一性保持権」に関する理解を確認する。「公衆送信権。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 同一性保持権は著作物や題号を著作者の意に反して改変されない権利である。
- イ. 著作財産権の一つで、複製をコントロールする権利である。
- ウ. 著作財産権の一つで、公衆への送信をコントロールする。
- エ. 産業財産権の一つである。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「同一性保持権。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「複製権。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「特許権。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「知的財産権」の「同一性保持権」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。著作財産権の一つで、公衆への送信をコントロールする。 著作者人格権には公表権、氏名表示権、同一性保持権などがある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0124 法務・標準化 > 知的財産権 | 難易度：標準

「知的財産権」を復習している。「引用なら目的や分量に関係なく自由に複製できる。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 所定の条件を満たす利用が認められる場合がある。
- イ. 著作権法上の引用として認められるには、引用の必要性や区別、主従関係、出所明示などの条件を満たす必要がある。
- ウ. 盗用や著作権侵害となる可能性がある。
- エ. 引用には条件がある。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「著作物であれば必ず一文字も利用できない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「引用部分を明確に区別し、主従関係や出所明示など必要な条件を満たして利用する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「出所を示さず全文を自分の著作物として掲載する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「知的財産権」の「適法利用」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。引用には条件がある。 著作物の利用では、許諾が必要な場合と法律上の例外として利用できる場合を区別する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0125 法務・標準化 > 知的財産権 | 難易度：応用

「特許権の保護対象を理解する」ために、「特許権。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. 特許権は発明を保護する産業財産権である。
- イ. 物品等のデザインを保護する。
- ウ. 著作者の人格的利益を保護する。
- エ. 商品・サービスの識別標識を保護する。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「意匠権。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「著作者人格権。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「商標権。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「知的財産権」の「発明」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。特許権は発明を保護する産業財産権である。産業財産権には特許権、実用新案権、意匠権、商標権がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0126 法務・標準化 > 知的財産権 | 難易度：標準

「知的財産権」の「考案」を確認する。次の選択「商標権。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 発明を保護する制度であり、保護対象の定義が異なる。
- イ. 識別標識を保護する。
- ウ. 表現上の著作物を保護する。
- エ. 実用新案制度は物品の形状、構造又は組合せに係る考案を保護する。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「特許権だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「著作権だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「実用新案権。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「知的財産権」の「考案」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。識別標識を保護する。特許と実用新案はどちらも技術的創作に関係するが、制度上の保護対象を区別する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0127 法務・標準化 > 知的財産権 | 難易度：基礎

「知的財産権」の演習で「著作権人格権だけ。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 意匠権は物品等のデザインを保護する産業財産権である。
- イ. 商品・サービスを識別する標識を保護する。
- ウ. 著作者の人格的利益に関する権利である。
- エ. 技術的発明の保護が中心である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「意匠権。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「商標権。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「特許権だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「知的財産権」の「デザイン保護」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。著作者の人格的利益に関する権利である。 技術、デザイン、ブランドなど保護したい対象に応じて知的財産権を使い分ける。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0128 法務・標準化 > 知的財産権 | 難易度：標準

「ブランド保護」に関する理解を確認する。「回路配置利用権。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 商標権は商品・サービスの出所を識別する標章を保護する。
- イ. 物品の形状・構造等の考案を保護する。
- ウ. 発明を保護する。
- エ. 半導体集積回路の回路配置に関する権利である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「商標権。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「実用新案権。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「特許権。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「知的財産権」の「ブランド保護」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。半導体集積回路の回路配置に関する権利である。 商標は企業のブランドや信用を守る上で重要な知的財産である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0129 法務・標準化 > 知的財産権 | 難易度：応用

「知的財産権」の演習で「秘密情報としてアクセスを制限し、秘密として管理されていることが分かるよう適切に管理する。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. 営業秘密として保護を受けるには、秘密として管理することなどが重要になる。
- イ. 秘密管理性を示しにくい。
- ウ. 情報流出の危険が高い。
- エ. 公開すると非公知性を失う。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「秘密情報であることを社内外へ一切示さず無制限に共有する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「退職者を含む全員が自由に持ち出せるようにする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「Webサイトへ誰でも閲覧できる形で公開する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「知的財産権」の「秘密情報」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。営業秘密として保護を受けるには、秘密として管理することなどが重要になる。 営業秘密は不正競争防止法による保護と、NDAやアクセス制御などの管理を組み合わせることが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0130 法務・標準化 > 知的財産権 | 難易度：標準

「不正競争防止法の役割を理解する」ために、「電波法だけ。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 労働条件の最低基準を定める法律である。
- イ. 無線通信に関する法律である。
- ウ. 道路交通に関する法律である。
- エ. 営業秘密の不正取得・使用などは不正競争防止法の規制対象となり得る。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「労働基準法だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「道路交通安全法。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「不正競争防止法。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「知的財産権」の「不正取得」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。無線通信に関する法律である。 企業の秘密情報は技術的・組織的管理だけでなく、不正競争防止法など法的保護の対象にもなる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0131 法務・標準化 > セキュリティ・労働・取引関連法規 | 難易度：基礎

「セキュリティ・労働・取引関連法規」の「不正ログイン」を確認する。次の選択「労働基準法。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 他人の識別符号などを悪用してアクセス制御を突破する不正アクセスを規制する法律である。
- イ. 商標を保護する法律である。
- ウ. 労働条件を扱う法律である。
- エ. 製造物責任に関する法律である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「不正アクセス行為の禁止等に関する法律。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「商標法。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

エ：この説明は元の論点では「PL法。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「セキュリティ・労働・取引関連法規」の「不正ログイン」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。労働条件を扱う法律である。 情報システム利用では技術的なアクセス制御だけでなく、不正アクセスを禁じる法規も関係する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0132 法務・標準化 > セキュリティ・労働・取引関連法規 | 難易度：標準

「セキュリティ・労働・取引関連法規」の演習で「広告メールには法規制が一切ない考える。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 受信者保護の趣旨に反する。
- イ. 営業活動目的の特定電子メールには送信に関する規制があるため、法令に従った運用が必要である。
- ウ. 偽装は適切でない。
- エ. 法規制が存在する。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「受信者から停止要求があっても必ず送り続ける。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「特定電子メール法などの規制を確認し、送信条件や表示義務等を守って運用する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は元の論点では「送信者情報を偽装すれば規制対象にならない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「セキュリティ・労働・取引関連法規」の「広告メール」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。法規制が存在する。 マーケティング施策でも、関連法令を確認して適法な運用を行う必要がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0133 法務・標準化 > セキュリティ・労働・取引関連法規 | 難易度：基礎

「時間外労働」に関する理解を確認する。「36協定。」という結論を支持する説明として最も適切なものはどれか。

- ア. 36協定は労働基準法第36条に基づく時間外・休日労働に関する労使協定である。
- イ. サービスレベル合意である。
- ウ. 提案依頼書である。
- エ. 秘密保持契約である。

答え・解説 正答：ア

- ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- イ：この説明は元の論点では「SLA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「RFP。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「NDA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「セキュリティ・労働・取引関連法規」の「時間外労働」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。36協定は労働基準法第36条に基づく時間外・休日労働に関する労使協定である。労働時間管理では、協定の締結だけでなく法令上の上限や健康確保も考慮する必要がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0134 法務・標準化 > セキュリティ・労働・取引関連法規 | 難易度：標準

「セキュリティ・労働・取引関連法規」を復習している。「派遣先が必ず労働者を直接雇用し、派遣元が指揮命令する。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 派遣元との雇用関係がある。
- イ. 関係が逆である。
- ウ. 派遣先から指揮命令を受けて業務を行う。
- エ. 労働者派遣では派遣元と労働者に雇用関係、派遣先と労働者に指揮命令関係がある。

答え・解説 正答：イ

- ア：この説明は元の論点では「派遣元と派遣先のどちらも雇用関係がない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- ウ：この説明は元の論点では「派遣では誰も業務上の指揮命令を行わない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「派遣元が労働者を雇用し、派遣先が業務上の指揮命令を行う。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「セキュリティ・労働・取引関連法規」の「指揮命令」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。関係が逆である。派遣契約と請負契約の違いでは、発注者・派遣先と労働者の指揮命令関係が重要な判断要素となる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0135

法務・標準化 > セキュリティ・労働・取引関連法規 | 難易度：応用

「偽装請負を理解する」ために、「著作権侵害だけ。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 請負では原則として発注者と受託会社の労働者との間に直接の指揮命令関係は生じない。
- イ. 契約名だけで判断するのではなく実態を見る必要がある。
- ウ. この事例の中心論点ではない。
- エ. 技術設計の問題ではない。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「実態が労働者派遣に該当する可能性がある偽装請負。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「正当な請負なので指揮命令関係は確認不要。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

エ：この説明は元の論点では「データベース正規化不足。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「セキュリティ・労働・取引関連法規」の「請負と派遣」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。この事例の中心論点ではない。派遣と請負は契約名称だけでなく、実際の指揮命令関係などによって区分する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0136

法務・標準化 > セキュリティ・労働・取引関連法規 | 難易度：標準

「セキュリティ・労働・取引関連法規」の「2026年法改正」を確認する。次の選択「著作権法。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. サイバーセキュリティ施策の基本法である。
- イ. 旧下請法は改正により中小受託取引適正化法となり、2026年1月1日から施行されている。
- ウ. 労働者派遣を規律する法律である。
- エ. 著作物を保護する法律である。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は元の論点では「サイバーセキュリティ基本法。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「中小受託取引適正化法（取適法）。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は元の論点では「労働者派遣法。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「セキュリティ・労働・取引関連法規」の「2026年法改正」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。著作物を保護する法律である。現行Ver.9.2では「下請法」を削除し「中小受託取引適正化法」を追加しているため、最新名称で学習する必要がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0137 法務・標準化 > セキュリティ・労働・取引関連法規 | 難易度：基礎

「セキュリティ・労働・取引関連法規」を復習している。「請負契約。」と判断できる理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 請負契約は仕事の完成を目的とする契約である。
- イ. 労働者を派遣先の指揮命令下で働かせる契約である。
- ウ. 秘密保持を定める契約である。
- エ. 一定の事務処理を委託する契約で、仕事の完成を目的とする請負とは異なる。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「労働者派遣契約。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「NDAだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「準委任契約。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「セキュリティ・労働・取引関連法規」の「成果物完成責任」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。請負契約は仕事の完成を目的とする契約である。 ソフトウェア開発では成果完成型か業務遂行型かなど、契約の性質と責任分担を理解する必要がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0138 法務・標準化 > セキュリティ・労働・取引関連法規 | 難易度：標準

「秘密保持」に関する理解を確認する。「請負契約。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. サービス品質の合意であり秘密保持契約ではない。
- イ. 仕事の完成を目的とする契約であり秘密保持を主目的としない。
- ウ. ソフトウェアの利用条件を定める契約である。
- エ. NDAはNon-Disclosure Agreementで、開示する秘密情報の取扱条件を定める守秘契約である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「SLA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「ソフトウェア使用許諾契約。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「NDA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「セキュリティ・労働・取引関連法規」の「秘密保持」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。仕事の完成を目的とする契約であり秘密保持を主目的としない。 外部委託や共同研究では、秘密情報を開示する前に守秘義務と利用範囲を明確にすることが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0139 法務・標準化 > セキュリティ・労働・取引関連法規 | 難易度：応用

「セキュリティ・労働・取引関連法規」を復習している。「36協定。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. ソフトウェア使用許諾契約は、権利者が利用条件を定めてソフトウェアの使用を許可する。
- イ. 労働者の派遣に関する契約である。
- ウ. 労働時間に関する協定である。
- エ. ソフトウェアは所有権移転だけでなく利用許諾として提供される場合がある。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「ソフトウェア使用許諾契約。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「労働者派遣契約。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「売買契約だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「セキュリティ・労働・取引関連法規」の「利用許諾」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。労働時間に関する協定である。利用者はライセンス条件を確認し、インストール数、再配布、改変などの条件を守る必要がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0140 法務・標準化 > セキュリティ・労働・取引関連法規 | 難易度：標準

「契約上の責任分担を理解する」ために、「事故時の連絡方法を定めない。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 外部委託では業務範囲と双方の責任、情報管理条件などを明確にする必要がある。
- イ. 認識違いや紛争の原因となる。
- ウ. 委託元にも委託先管理が必要である。
- エ. インシデント対応を遅らせる。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「業務範囲、責任分担、秘密保持、サービス水準、事故時の連絡などを契約で明確にする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「責任範囲は曖昧なまま口頭だけで合意する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「委託すれば自社の管理責任は全て消滅すると考える。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「セキュリティ・労働・取引関連法規」の「外部委託」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。インシデント対応を遅らせる。契約締結時には関連法規を踏まえ、業務内容と責任を明確化する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0141 法務・標準化 > 標準化・コンプライアンス・技術者倫理 | 難易度：基礎

「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の「国内標準」を確認する。次の判断「日本の産業標準であり、JISCの答申を受けて主務大臣が制定する。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. JISは日本産業規格で、JISCの答申を受けて主務大臣が制定する。
- イ. RFCとは別の標準体系である。
- ウ. ISO規格と整合するJISもあるが、JISの制定主体の説明として誤りである。
- エ. 国家的な産業標準であり一社の社内規格ではない。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「インターネットのRFCだけを指す。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「ISOが直接日本国内法として制定する規格である。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「民間企業一社だけが制定する社内規格である。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の「国内標準」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。JISは日本産業規格で、JISCの答申を受けて主務大臣が制定する。情報処理分野ではJIS X、管理システム分野ではJIS Qなどの区分がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0142 法務・標準化 > 標準化・コンプライアンス・技術者倫理 | 難易度：標準

「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の演習で「JISCだけ。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. ISOは幅広い国際標準を扱うが、電気・電子技術分野ではIECが中心となる。
- イ. 日本の標準化に関する審議会である。
- ウ. インターネット技術の標準化を進める組織である。
- エ. IECはInternational Electrotechnical Commissionで、電気・電子技術分野の国際標準化を担う。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「ISOだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「IETFだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「IEC。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の「国際標準化団体」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。日本の標準化に関する審議会である。ISOとIECは分野を分担しつつ、情報技術などでは共同規格も策定する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0143 法務・標準化 > 標準化・コンプライアンス・技術者倫理 | 難易度：基礎

「インターネット標準」に関する理解を確認する。「JISC。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. IETFはInternet Engineering Task Forceで、インターネット技術の標準化を進める。
- イ. 知的財産に関する国際機関である。
- ウ. 日本の産業標準化に関する組織である。
- エ. 日本の競争政策を担う行政機関である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「IETF。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「WIPO。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「JFTC。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の「インターネット標準」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。日本の産業標準化に関する組織である。標準化団体は対象分野が異なるため、ISO、IEC、IETF、IEEEなどを区別する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0144 法務・標準化 > 標準化・コンプライアンス・技術者倫理 | 難易度：標準

「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」を復習している。「デジュレスタンダード。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 監査結論の根拠情報である。
- イ. 市場で広く普及して事実上の標準となったものをデファクトスタンダードという。
- ウ. 一企業内だけの手順では市場標準とはいえない。
- エ. 公的・公式な手続で制定された標準を指す。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「監査証拠。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「デファクトスタンダード。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「社内手順だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の「事実上の標準」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。公的・公式な手続で制定された標準を指す。標準には公的に制定されるものだけでなく、市場普及によって形成されるものもある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0145 法務・標準化 > 標準化・コンプライアンス・技術者倫理 | 難易度：応用

「標準化の効果を理解する」ために、「相互接続性や互換性を高め、市場で組み合わせて利用しやすくなる。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. 共通規格により製品やサービス間の相互運用性を高められる。
- イ. 価格を統一するものではない。
- ウ. 標準化と技術革新は両立し得る。
- エ. 標準化の目的と逆である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「製品価格が必ず同一になる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「技術革新が必ず停止する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「メーカー間の接続を必ず禁止できる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の「互換性」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。共通規格により製品やサービス間の相互運用性を高められる。標準化は互換性、品質確保、取引効率、市場形成などに役立つ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0146 法務・標準化 > 標準化・コンプライアンス・技術者倫理 | 難易度：標準

「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の「開発取引標準」を確認する。次の選択「CVSS。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 公開鍵基盤である。
- イ. 脆弱性深刻度評価指標である。
- ウ. 多要素認証である。
- エ. SLCP-JCFはソフトウェアライフサイクルや取引に関する共通の枠組みとして例示されている。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「PKI。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「MFA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「SLCP-JCF（共通フレーム）。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の「開発取引標準」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。脆弱性深刻度評価指標である。開発・取引プロセスを共通用語で整理することで、発注者と受注者の認識合わせに役立つ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0147 法務・標準化 > 標準化・コンプライアンス・技術者倫理 | 難易度：基礎

「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の演習で「キャッシュヒット率。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. コンプライアンスは法令や社会規範、社内ルールなどを遵守して企業活動を行う考え方である。
- イ. 処理性能指標である。
- ウ. キャッシュ性能指標である。
- エ. 仮想記憶管理方式である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「コンプライアンス。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「スループット。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「ページング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の「法令・規範遵守」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。キャッシュ性能指標である。企業は短期的利益だけでなく、法令違反による制裁・信用失墜などのリスクを考慮する必要がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0148 法務・標準化 > 標準化・コンプライアンス・技術者倫理 | 難易度：標準

「安全優先」に関する理解を確認する。「事故が起きるまで何もしない。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 説明責任と追跡性を損なう。
- イ. 専門技術者には社会的責任があり、安全や公共利益を考慮した行動が求められる。
- ウ. 重大リスクを隠す行為は倫理的に問題がある。
- エ. 予防可能な事故を放置する。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「検証記録を削除する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「利用者や社会の安全への影響を評価し、組織の定めた適切な経路で欠陥を報告・是正する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「上司の指示なので欠陥を隠す。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の「安全優先」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。予防可能な事故を放置する。技術者倫理では法令遵守だけでなく、専門家として安全・公正・社会的影響を考えることが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0149 法務・標準化 > 標準化・コンプライアンス・技術者倫理 | 難易度：応用

「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の演習で「発信元や複数の信頼できる情報源を確認し、真偽を検証してから発信する。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. ファクトチェックは誤情報・偽情報の拡散を防ぐために重要である。
- イ. 社会的混乱を拡大する可能性がある。
- ウ. 誤情報を訂正しないと被害を拡大し得る。
- エ. 人気度は真実性を保証しない。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「刺激的な内容ほど優先して拡散する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「誤りが判明しても訂正しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「拡散数が多ければ事実確認せず投稿する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の「誤情報対策」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。ファクトチェックは誤情報・偽情報の拡散を防ぐために重要である。情報倫理ではフェイクニュース、ディスインフォメーション、ミスインフォメーションなどへの適切な対応が求められる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0150 法務・標準化 > 標準化・コンプライアンス・技術者倫理 | 難易度：標準

「ELSIを理解する」ために、「RTO。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. CPU性能指標である。
- イ. 復旧時間目標である。
- ウ. トランザクションの特性である。
- エ. ELSIはEthical, Legal and Social Issuesで、倫理的・法的・社会的課題を総合的に検討する観点である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「CPI。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「ACID。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「ELSI。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「標準化・コンプライアンス・技術者倫理」の「社会実装の課題」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。復旧時間目標である。新技術の社会実装では技術的实现可能性だけでなく、社会への影響や受容性まで考慮する必要がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04